



明日香村来訪地醸成計画案

Asuka Village Destination Stewardship Plan

2026 ~ 2030

明日香村観光推進協議会

はじめに

ごあいさつ

明日香村は、感性と知性の双方に深く響く場所です。

夕暮れの鳥の声、石の中で反響する音、里山に重なる緑の濃淡。
初夏に舞う螢の光を見るたび、私はこの土地に流れる時間の深さを感じます。

同時にこの地は、古代東アジアの激動のなかで国家形成に挑んだ舞台でもあります。約1400年前、この小さな盆地から日本の原型が模索されました。明日香村は日本の源として、過去と未来を結ぶ場所なのです。

厳格な景観規制や開発規制など、制約の多い環境での営みは、容易な道ではありません。しかしその制約こそが、この地の本質を守り続けてきました。

明日香村の来訪地づくりは、効率や流行を追うものではなく、この土地の時間と思想に根ざしたものであるべきだと考えています。

私たちは本計画を「来訪地醸成計画」と名づけました。

醸すとは、麹や酵母の働きを活かし、素材のもつ力を引き出し、導きながら、内側からゆっくりと成熟させていく営みです。

外から形を整えるのではなく、時間をかけて価値を深めていく。それが、この地にふさわしい歩みだと信じています。

世界遺産登録を控え、受入環境や交通対策など迅速に進めるべき課題もあります。基盤整備は着実に前へ進めます。

しかし、地域の価値そのものを高める営みは、焦らず、止まらず、積み重ねていくものです。

この地と真摯に向き合い、ともに力を合わせながら、この地を醸していく。その歩みが、次の百年をつくると信じています。

Toshiaki Yanagi_ASUKA Photo Contest





千四百年の来訪地を、
ともに守りはぐくむ。

目次

はじめに

- * あいさつ
- * ビジョン
- * 目次

第1章 来訪地醸成計画の策定について

- * 明日香村は「観光地」か
- * 来訪地醸成計画の意義
- * 位置づけとプロセス

第2章 みんなの“好き”から考える未来

- * 住民、事業者の思いと願い
- * 来訪者の思い

第3章 明日香村が直面している課題と 世界的に見る観光の役割

- * 明日香村が直面している課題
- * 世界的に見る観光の役割

第4章 課題解決と価値創造のためのアクションプラン

- * 世界基準の観光ガイドラインの導入
- A : 持続可能なマネジメント
- B : 社会経済
- C : 文化
- D : 環境

第5章 成果目標の設定とロードマップ

第6章 アクションを押し進める体制



第1章 来訪地釀成計画の 策定について

明日香村は「観光地」か

◎歴史的風土を守ってきた「住民」と「来訪者」

1966年の古都保存法、1980年の明日香法*。私たちはこの半世紀それらの合意を基礎として「歴史的風土」を保全し、将来世代へ伝えていくために、様々な取組をおこなってきました。

それらの取り組みの主体はもちろん地域資源の守護者たる私たち住民でしたが、住民以外の人々の力もなくてはならぬものでした。

時には国境を越えて訪れる多様な来訪者の活動と、住民の営みが積み重なり、歴史的風土は醸成されてきたのではないでしょうか。



◎本計画の名称について

国土交通省による「観光」の定義は「余暇時間の中で日常生活圏を離れて行う様々な活動で、触れ合い、学び、遊ぶことを目的とするもの」（1995年 観光政策審議会）です。

一方、私たちが今後も推進していく取組は「観光客」が行う消費や体験だけではなく、右の図にあるような地域と何らかの関りをもつ人たちが行う活動や交流も含みます。

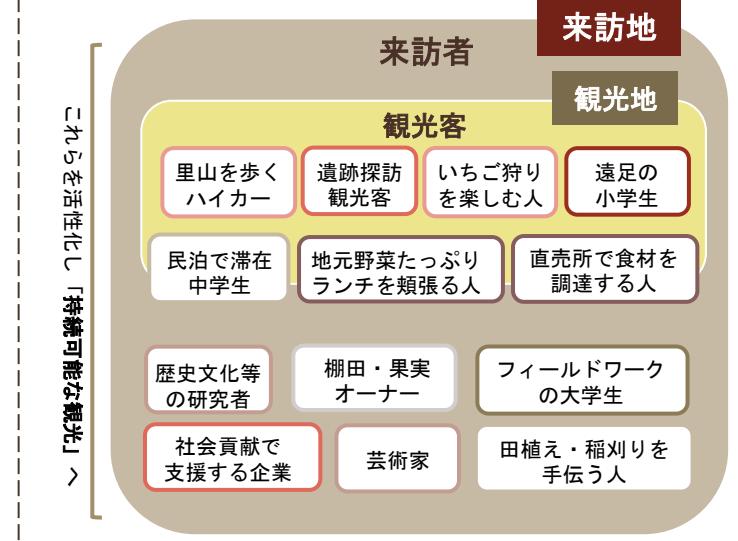
なぜなら、それらの多様な「来訪者」による消費・体験・活動すべてが、明日香村を持続可能なものにしていくからです。

本計画は、観光事業者が利益を効率よく享受するためのものではなく、来訪者との交流に関わるすべての人が認識を共有し、大好きな明日香村を醸していくための計画です。

したがって、この計画は明日香村「観光」計画ではなく、明日香村「来訪地」醸成計画と呼ぶことにします。

* 明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備に関する特別措置法

本計画における
「来訪者」「来訪地」と「観光客」「観光地」の概念図



来訪地醸成計画の意義



◎ 来訪者と地域の優しい関係をつくる

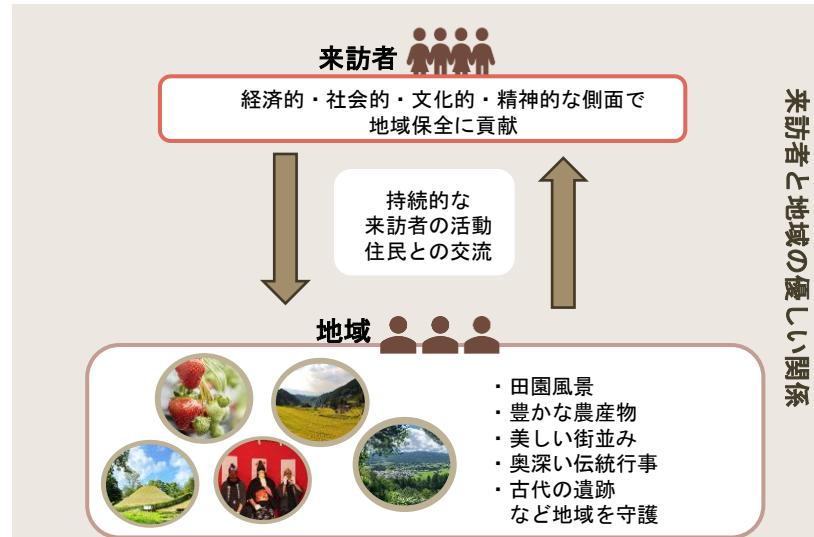
来訪者の活動や住民との交流が、将来にわたって持続するためには何が必要でしょうか。それは土台にある「地域」そのものです。そして「地域」は住民だけで守れるものではありません。

来訪者は「地域」に経済的・社会的・文化的・精神的な側面で影響をもたらすことができます。

悪い影響を最小化し、良い影響を最大化することで、来訪者は「地域」の繁栄に大きく貢献できます。

この「来訪者」と「地域」の優しい関係を生み出すために、関わる人々が協力して目線を合わせ、互いに導き合い、自らと地域の価値を醸成していくこと（スチュワードシップ）が求められます。

「来訪地醸成計画」はその行動の指針となるものです。



地域資源（登録されているものの一部）

《有形文化資源》

■史跡・名勝

- 石舞台古墳（特別史跡）
- 高松塚古墳（特別史跡）・同壁画（国宝）
- キトラ古墳（特別史跡）・同壁画（国宝）
- 川原寺跡（国史跡） 大官大寺跡（国史跡）
- 牽牛子塚古墳・越塚御門古墳（国史跡）
- 中尾山古墳（国史跡） 酒船石遺跡（国史跡）
- 定林寺跡（国史跡） 飛鳥寺跡（国史跡）
- 橘寺境内（国史跡） 岩屋山古墳（国史跡）
- 飛鳥宮跡（国史跡） 飛鳥水落遺跡（国史跡）
- 飛鳥稻淵宮殿跡（国史跡）
- マルコ山古墳（国史跡） 飛鳥池工房遺跡（国史跡）
- 檜隈寺跡（国史跡） 岡寺跡（国史跡）
- 飛鳥京跡苑池（国史跡・名勝） 都塚古墳（国史跡）

■建築

- 旧大鳥家住宅主屋・離れ（ブランシェ・ガ・イヤ/登録有形文化財）
- 奈良文化財研究所飛鳥資料館本館・同売札所（登録有形文化財）
- 岡寺仁王門（重文） 岡寺書院（重文）

■彫刻（一部）

- 岡寺塑像如意輪観音坐像（重文）
- 橋寺木造如意輪観音坐像（重文）
- 木造聖德太子坐像（重文）
- 川原寺木造持国天・多聞天立像（重文）
- 飛鳥寺銅像釈迦如来坐像（重文）
- 於美阿志神社石塔婆（重文）
- 石像男女像・石像須弥山石（重文/飛鳥資料館）

■景観 奥飛鳥の文化的景観（国重要文化的景観）

《無形文化資源》

- 八雲琴（村無形文化財）

《自然資源》

- 飛鳥ホタル（村天然記念物）

対象地域：明日香村



面積 : 24.1km²

人口 : 5,004人 (2025/10/1)

緯度経度 : 北緯34度、東経135度

土地利用 : 森林60%、田畠20%、

住宅地10%、その他10%

国営飛鳥歴史公園 : 60ha (0.6km²)

地域資源



Toshiaki Yanagi_ASUKA Photo Contest

◎ 遺跡や伝承として残る、国のはじまりの記憶

6~8世紀の天皇の宮殿跡や古墳、寺院跡を中心に特別史跡が3件、国宝が2件、国史跡が18件など多くの文化資源、自然資源が存在し、一部は世界文化遺産暫定リストにも掲載されています。

また、日本最古の歴史書である「日本書紀」の記述や民間伝承が伝わる場所、日本最古の歌集である「万葉集」に詠まれた川や丘が、そこかしこにあります。

明日香村を訪れる人は、季節ごとにうつろう自然のなかに、有形・無形の形で残る、国のはじまりの記憶を感じることができます。

またここで暮らす人々は、その記憶やそこから感じとった思想や美意識、感情を、日々の暮らしや活動、新たな文化やなりわいの創造につなげています。

地域資源



◎ 日々育まれる新たな文化やなりわい

現代の明日香人が、古代国家に起源をもつ文化や、受け継がれてきた農耕文化を土台にしながら、静かに独自のなりわいを生み出しています。

飲食店のテーブルでは直売所で仕入れられた朝採れ野菜を食べ、宿泊施設では改装された古い農家建築を通じて暮らしに触れ、草木染め・醤油蔵・古代ガラスなどの体験を通じて継承された文化を学ぶことができます。

◎ 大切につないできた伝統行事や信仰

古くからの集落や田畠が継承されている明日香村では、いにしえからの信仰をもとに伝統行事や伝承芸能も営まれています。

飛鳥坐神社のおんだ祭り、雨乞い神事である南無天（なもで）踊りは、五穀豊穣や子孫繁栄の祈りを色濃く残しています。また、集落ごとに催行されるとんど焼きや秋祭りなど、日本各地に広がる農耕行事も、息づいています。

◎ すべての基盤となる歴史的景観

1966年、高度経済成長期の都市開発から歴史的景観を守るための法律「古都保存法」が施行され、一部が歴史的風土保存地区に指定されました。

1980年には明日香村の全域が同地区に拡大指定されたのと合わせ、住民の生活向上の方策も盛り込んだ「明日香法」が施行されました。

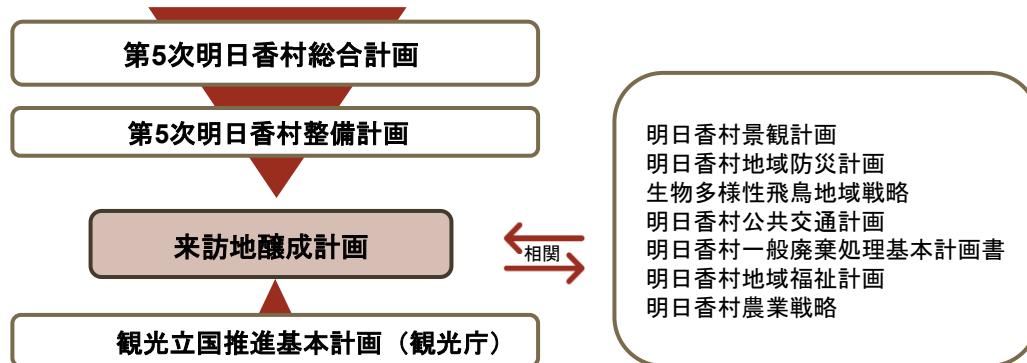
地域の人々の営みと努力、そして法律が半世紀の間、変わらぬ風景を守ってきました。

◎ 来訪地醸成計画の期間

・2026年度（令和8年度）～2030年度（令和12年度）の5年間



◎ 来訪地醸成計画の位置づけ



◎ 明日香村総合計画について

明日香村が目指す未来のすがた

○ 明日香村の価値

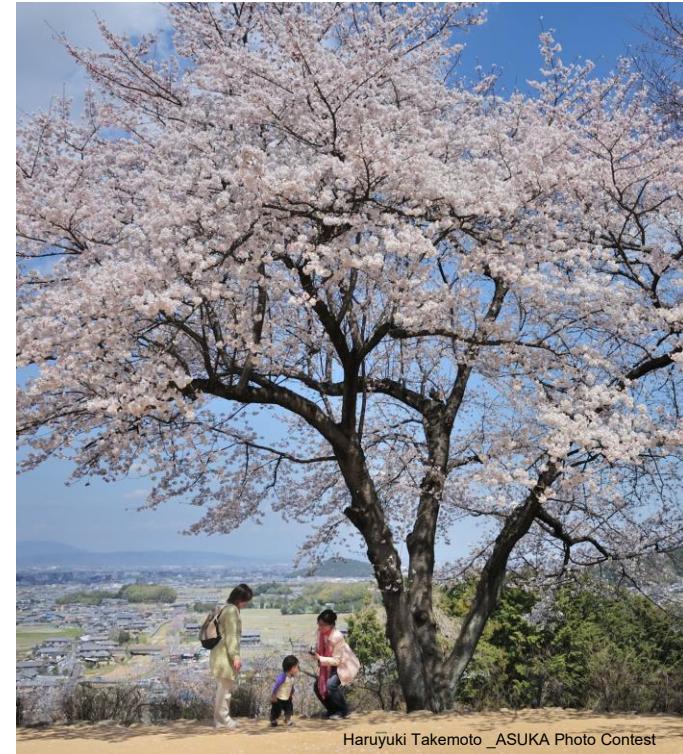
唯一無二の多様な歴史資産の豊かな自然環境中で「くらし」や「なりわい」、「たたずまい」があるところ。

○ 協働による村づくり

様々なノウハウや考えを持った多様な人材が明日香村を支えるパートナーとして、みんなで地域課題を克服できる明日香村を目指します。

○ 目標（将来像）

- ・「いつまでも住み続けたい」そう思える夢ある村
- ・五感で体感できる「明日香まるごと博物館」



第2章 みんなの”好き”から考える未来

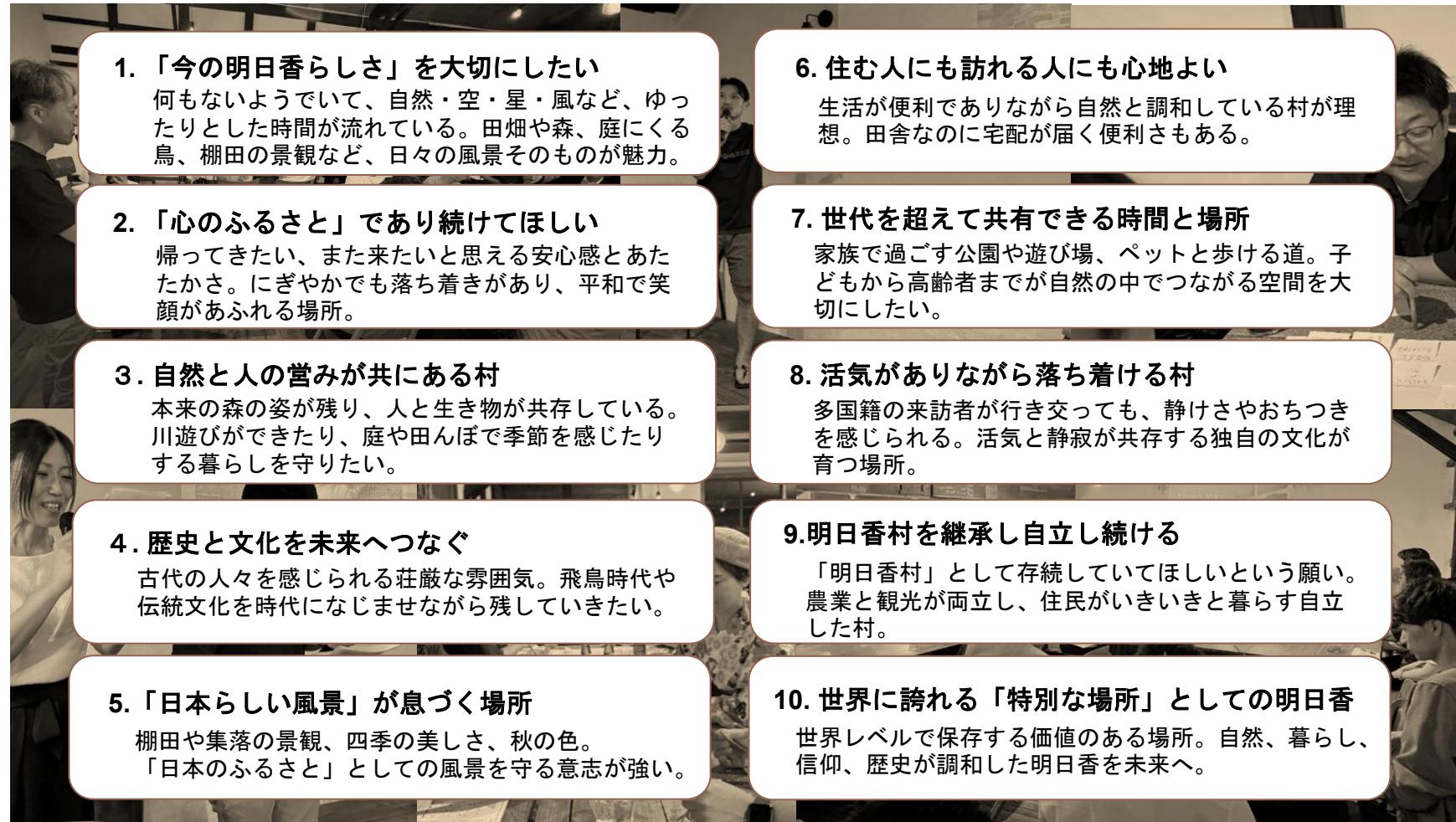


本計画が、常に大切にし寄り添うのは、
地域に暮らし、働き、活動している人々の「実感」や「願い」、
また、来訪する人々の「思い」です。

第2章では、住民や事業者・明日香小学校の子どもたちから
寄せられた言葉と、来訪者アンケートから、
この来訪地に対する「思い」を整理します。

住民・事業者の思いと願い

Q. この場所のどんなところが好きですか？ 明日香村の好きなところを教えてください。

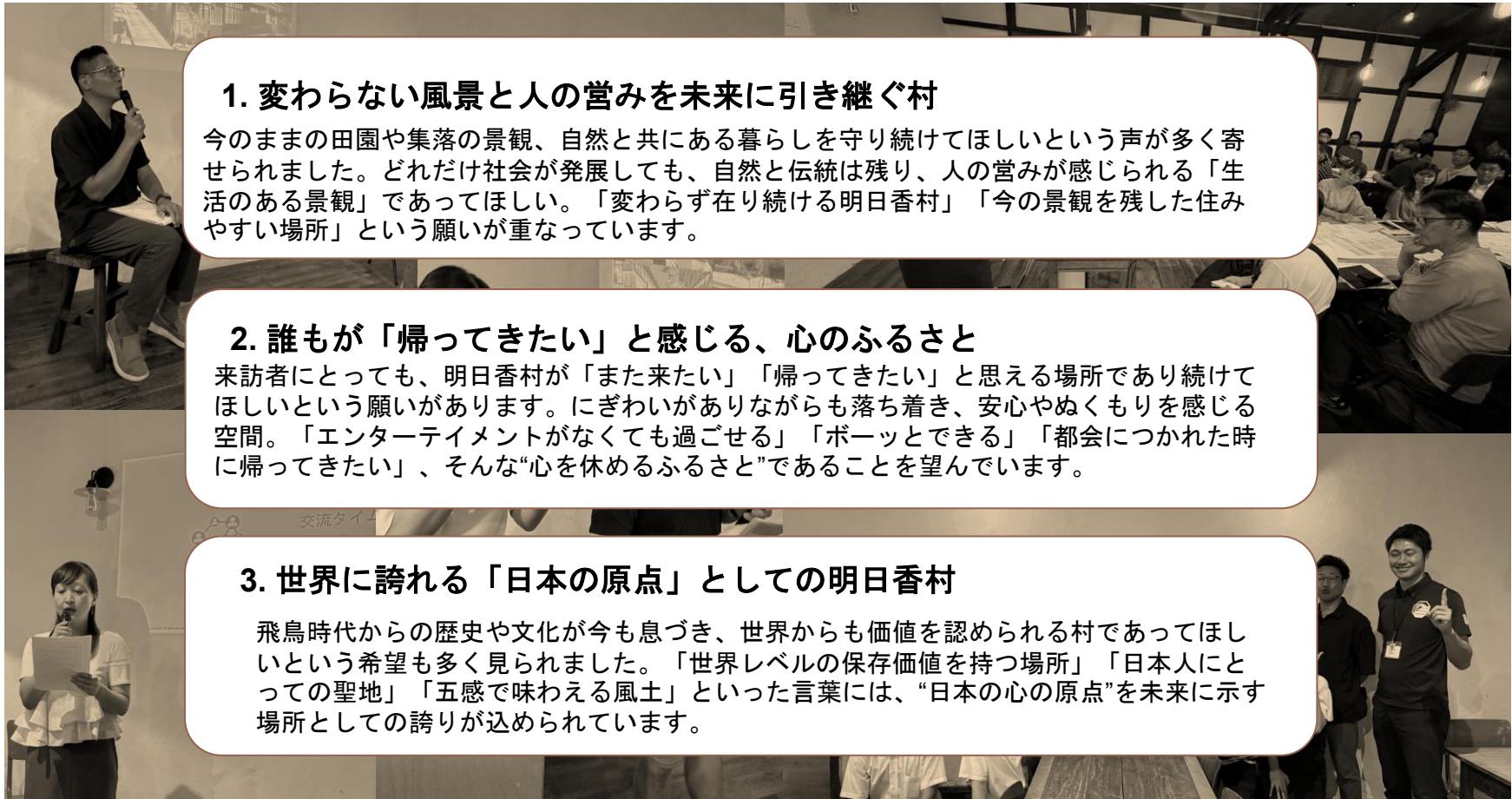


* 「飛鳥ミライズ」第1回勉強会ワークショップ（7月23日）及び「あすかのサマバケ縁日」（7月30日）にて明日香村住民・事業者・小学生が答えた言葉をAIに読み込ませ10項目に分類しました。

住民・事業者の思いと願い

やしゃご

Q. あなたの「玄孫」にとって、また、その時代の来訪者にとって、この場所はどのようなものになってほしいですか？



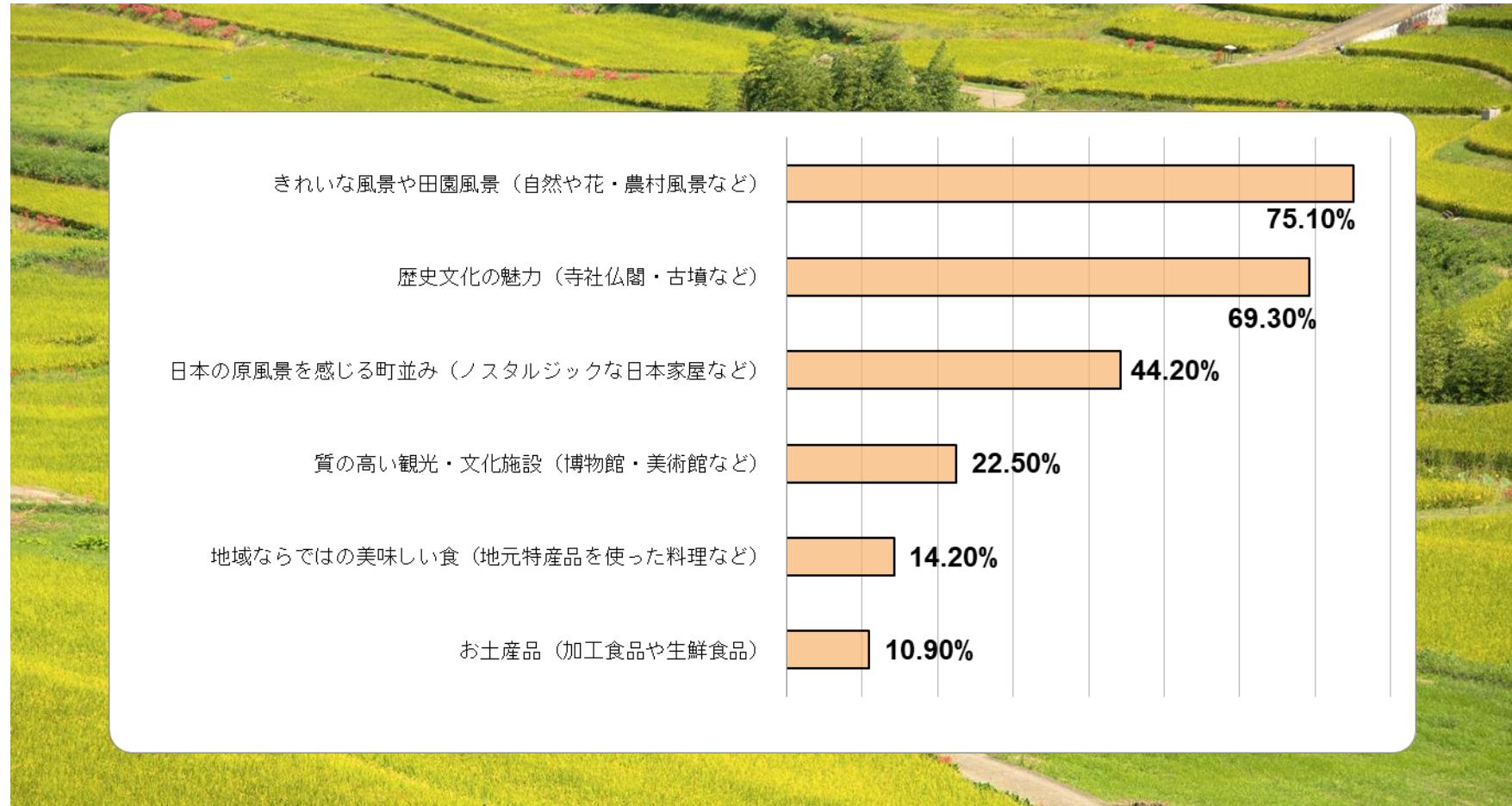
*「飛鳥ミライズ」第1回勉強会ワークショップ(7月23日)にて明日香村住民・事業者が答えた言葉をAIに読み込ませ3項目に分類しました。

飛鳥ミライズとは？ 村に住む、働く、住みたい、働きたい人々が集いつながり語り合う勉強会。2025年7月から毎月1回実施され、参加者の取組をプレゼンするスピーチとワークショップを行っています。

あすかのサマバケ縁日とは？ 夏休みの体験プログラムの祭典「あすかのサマバケ」のミニ企画として、2025年7月に明日香小学校の子どもたち向けに村役場で実施した縁日イベントです。

来訪者の思い

Q. 「滞在して満足したこと」を複数回答方式で伺いました。



* 「明日香村観光実態調査（2025年）」にて1176名を対象にしたアンケート調査。最大5つまで選択可能な方式。10%以上の人人が選んだ項目のみ記載。

まとめ

明日香村で暮らす人、働く人、そして訪れる人の声の多くは、

農村の景観や人の温かさ

歴史文化の継承

そして、

“変わらないこと”的大切さ

に関するものでした。



その愛着の根底には、
 「自然・歴史・人の営み・時間の流れ」
 が織り重なった価値観があると同時に、
 明日香村が
 “暮らしと歴史・自然が一体となった場所”
 として、多くの人にとって心の拠りどころであるということが見えてきます。

次章では、こうした地域の思いの一方で、
 私たちが直面する課題を整理し、来訪者が地域の未来に貢献できることは何なのかを、世界や日本の観光統計から考えます。



第3章

明日香村が直面する課題と 世界的に見る観光の役割

世界と日本、明日香村を取り巻く状況

政治・国際環境

- ・不安定な国際情勢
- ・分断が進む世界
- ・選ばれる理由の多様化
- ・個人、分散型の人の移動

社会・暮らし

- ・人口減少が前提の社会
- ・担い手不足の深刻化
- ・多様な生き方、働き方
- ・心の豊かさを求める志向
- ・共感を重視する消費行動

自然・環境

- ・気候変動の影響が拡大
- ・自然を損なわない人間活動の探求

経済・観光の変化

- ・持続可能な観光が世界の潮流
- ・量より質の時代
- ・地域内で回る観光経済
- ・小さな経済の積み重ね
- ・観光が地域の稼ぎになる

来訪地の姿

- ・住民と来訪者の共創関係
- ・地域が自ら動く時代
- ・データとAIを活用した来訪地経営

明日香村

次の5年の大好きな出来事

世界遺産登録

星野リゾート営業開始

飛鳥宮跡整備

高松塚古墳壁画保存活用

明日香法50周年

明日香村が直面する問題①

◎ 農業景観と集落景観の荒廃

山間につくられた棚田や飛鳥宮跡に広がる田んぼ、果樹や野菜の畠。高さがそろった瓦屋根の家並み、点在する集落。これらは多くの人々が愛する「明日香村」の土台となっています。

しかし、
近年は耕作放棄地や空き家が増えてきています。

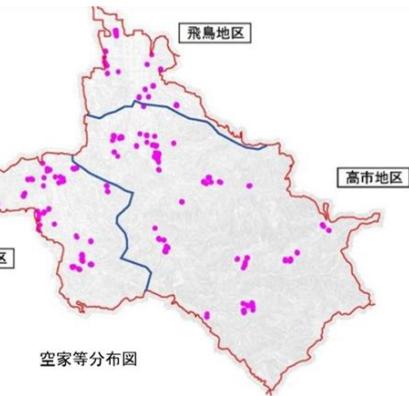
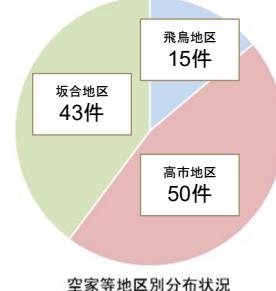
様々な対策や取組が講じられてきましたが、地域コミュニティの営みを中心的に担ってきた団塊の世代全員が後期高齢者に突入する2025年以降、その流れは急激に進むと考えられています。

農家数の推移 (R7年以降は予測)

出典：農林業センサス（2020年）



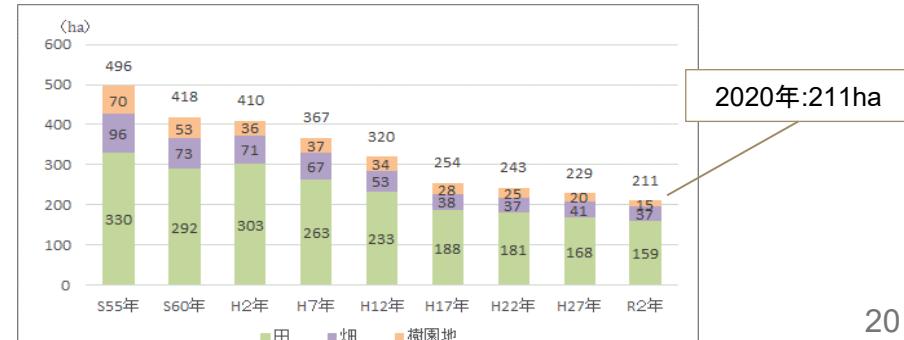
明日香村の空家数(2015年)



出典：明日香村空家等対策計画

経営耕地面積の推移

出典：農林業センサス（2020年）



明日香村が直面する問題②

◎集落の営みの衰退・観光サービス力の停滞

集落の運営においても、ビジネスの経営においても、担い手が最も重要な財産となります。

明日香村の人口は、1990年から約2,000人減少し約70%になりました。

明日香村の年齢構成の推移

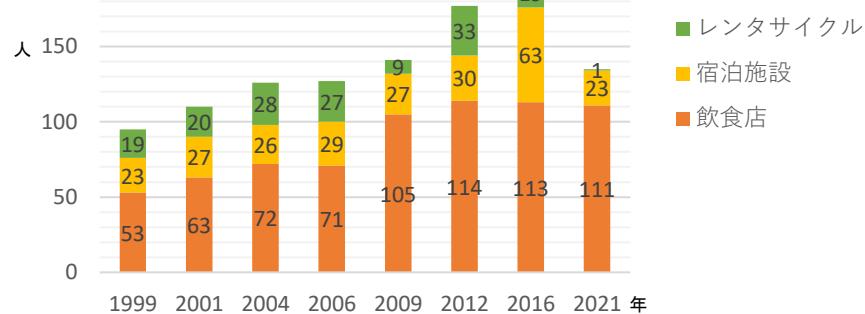


出典：国勢調査

特に生産年齢人口である15~64歳の人口が半分程度になったことで、草刈りにはじまり神社の守り、祭りの継承など、集落のあらゆる運営に影響が出てきます。

また、観光産業の従業者数は、1999年以降は増加傾向でしたが、新型コロナウィルスにより大きなダメージを受けました。

観光産業従業者数の推移



「事業所・企業統計調査」（～2006年）、「経済センサス」（2009年～）より飛鳥観光協会作成

民間従業者数全体に占める観光産業の割合の推移



「事業所・企業統計調査」（～2006年）、「経済センサス」（2009年～）より飛鳥観光協会作成

明日香村が直面する問題 ③

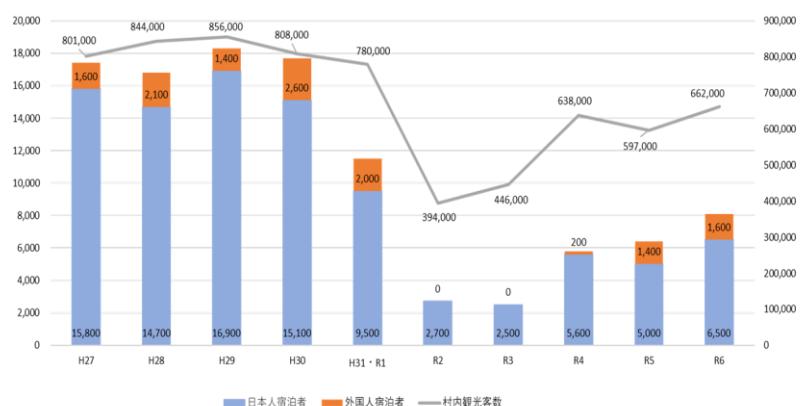
◎観光客数・一人あたり消費額の低迷

明日香村の観光客数は、1980年代前半頃までは160万人を超えていましたが、以降は減少傾向にあります。

1990年代以降は80万人前後で推移、2020年には、新型コロナウィルス感染拡大の影響で40万人まで減少しました。

徐々に回復しつつあるものの、2024年現在、コロナ以前の水準までは回復していません。

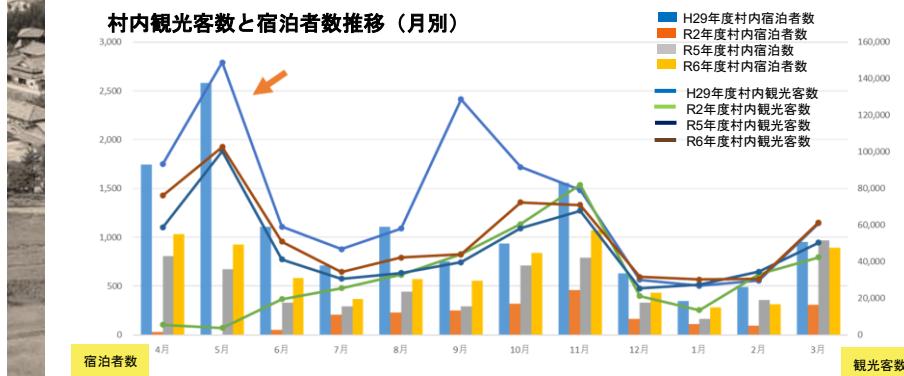
村内の観光客数と宿泊客数の推移（年別）



宿泊客数の傾向も同様で、2024年は8,100人でした。

また、繁忙期（春/秋）と閑散期（夏/冬）間での、観光客数・宿泊客数の差が大きい傾向が依然続いています。

村内観光客数と宿泊者数推移（月別）



観光客一人あたり消費額の推移

観光客一人あたりの消費額は、日帰り客・宿泊客とも全国平均を大きく下回っているのが現状です。



上「明日香村観光動向」（2024年）、下 飛鳥観光協会作成

明日香村が直面する問題 ④

◎マネジメント及びマーケティング力の不足

持続可能な観光地域づくりのための指標として、「GSTC-D」という国際的な基準があります。これに準拠してつくられた日本版JSTS-Dでは、最低限取り組むべきことを「A持続可能なマネジメント・B社会経済・C文化・D環境」の4分野47項目に分類して示しています。

なかでも、「A持続可能なマネジメント」は基本的体制に関する項目であり、観光地においてまず整えるべきものとされていますが、明日香村は未成熟な項目が多いのが現状です。

◎ピンクの部分が未成熟な項目

A1 デスティネーション・マネジメント（観光地経営）戦略と実行計画

持続可能な観光の基本理念に基づき、環境、経済、社会、文化等に関する内容を含む、「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組むこと明記した観光計画等がある

A2 デスティネーション・マネジメント（観光地経営）の責任

持続可能な観光を推進する責任を担う管理組織がある

A3 モニタリングと結果の公表

観光に起因する環境、経済、社会、文化、人権に関する課題について定期的に調査し、一般公表している

A4 観光による負荷軽減のための財源

観光による負荷（オーバーツーリズム関連の課題等）軽減のための財源が確保されている

A5 事業者における持続可能な観光への理解促進

事業者がGSTC公認のトレーニング・プログラムを受講している

A6 住民参加と意見聴取

デスティネーションマネジメント（観光地経営）について行政・民間事業者・地域住民の三者で構成される体制がある

A7 住民意見の調査

観光地経営に関する住民の期待、不安、満足度などのデータは、定期的に調査されている

A8 観光教育

地域コミュニティ、学校、高等教育機関において、観光の可能性や課題に関する教育プログラムがある

A9 旅行者意見の調査

旅行者満足度について、アンケートなどを通じて調査を実施している

A10 プロモーションと情報

市場調査及びデータに基づく観光地域が求めるターゲット層の誘致促進策は、地域コミュニティや自然・文化的資産を尊重している

出典：日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）

A11 旅行者数と活動の管理

旅行実態（訪問数、活動内容）を把握している

A12 計画に関する規制と開発管理

自然・文化的資源の保護計画やゾーニングに関するガイドライン、規制、方策がある

A13 適切な民泊運営

民泊に関する相談窓口が設置されている

A14 気候変動への適応

災害等、非常時の計画が策定され、インバウンドを含む観光部門も考慮に入れている

A15 危機管理

観光に影響を及ぼす気候変動による負の影響を想定している

A16 感染症対策

旅行者、事業者、地域住民のすべてが安全に過ごすことができるよう感染症対策を講じている

世界的に見る観光の役割

◎観光は世界経済を動かす原動力に

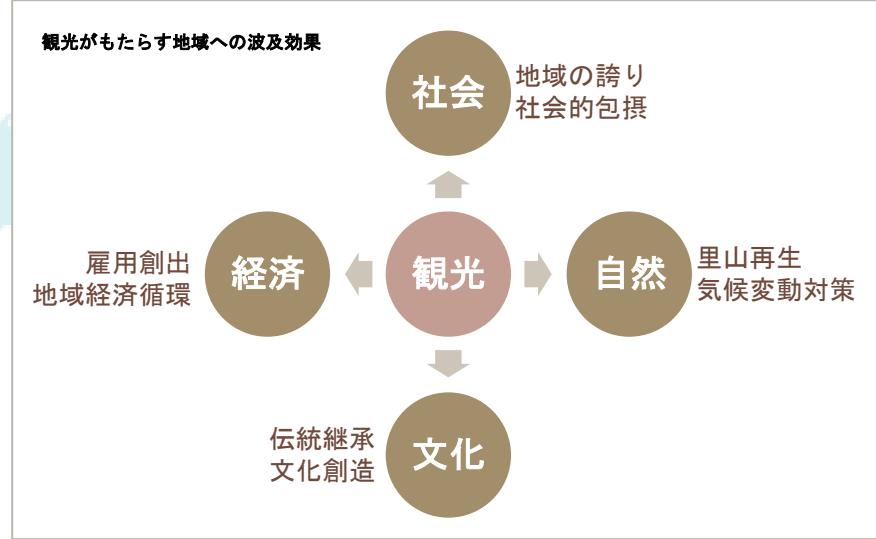
観光は世界最大級の産業であり、社会経済への影響が非常に大きい分野です。

* 世界の国際観光客数と国際観光収入

世界の観光客数、観光収入はともに年々増加し、今では、観光は世界のGDPの約10%を占める産業となっています。(WTTC2024)



また、適切にコントロールされた観光は経済・社会・文化・自然の分野で地域の繁栄に貢献できると考えられています。



観光は

地域の価値を未来へつなぐ“繁栄”の仕組み

でもあるのです。

資料：世界観光機関（UN Tourism）、国際通貨基金（IMF）資料に基づき観光庁作成
注1：国際観光客数はUN Tourism「Tourism Dashboard」（2025年1月時点）のInternational Tourist Arrivalsの数値。注2：世界の実質GDPは、2010年を100として指標化。

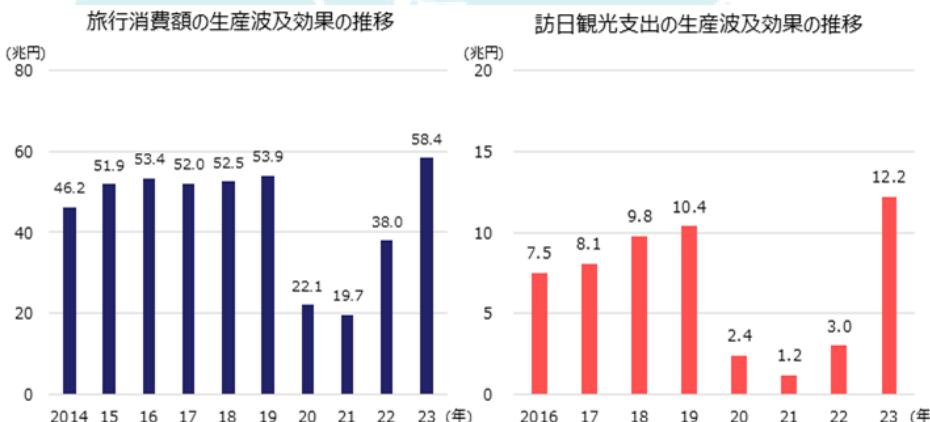
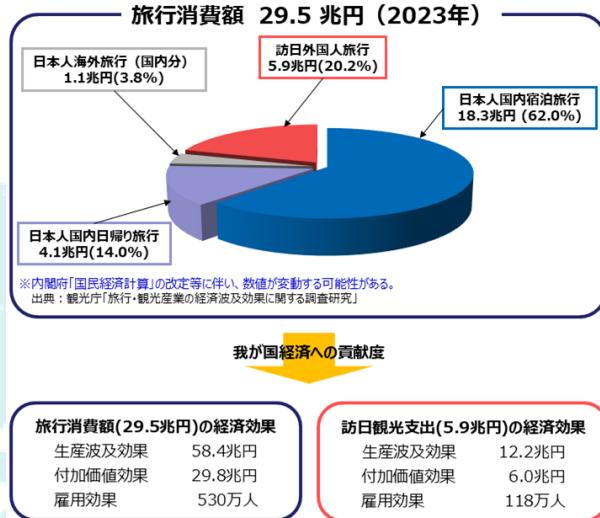
日本における観光の役割

◎観光は日本の地域経済の生命線（1）

* 日本における観光の経済・雇用効果

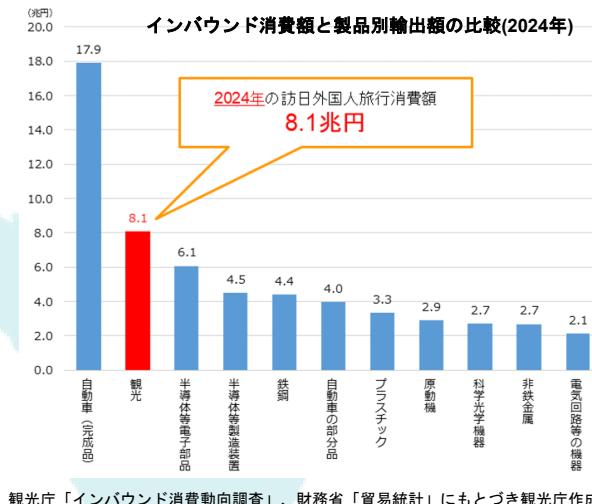
観光は地域への経済効果をもたらし、雇用創出にもつながります。

コロナ渦は一時落ち込んだものの、2023年にはコロナ前よりも高い波及効果で推移しています。

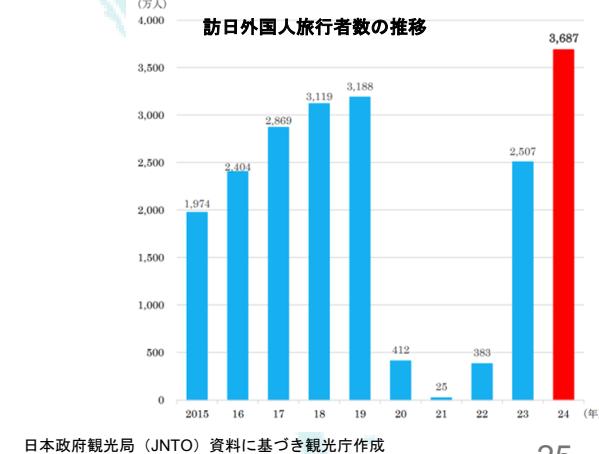


* インバウンドの消費動向

訪日外国人の観光消費額を製品別輸出額と比較した際、観光消費額は2番目に大きい分野です。



また、訪日外国人旅行者の数は、コロナ渦を除き、年々増加傾向にあります。

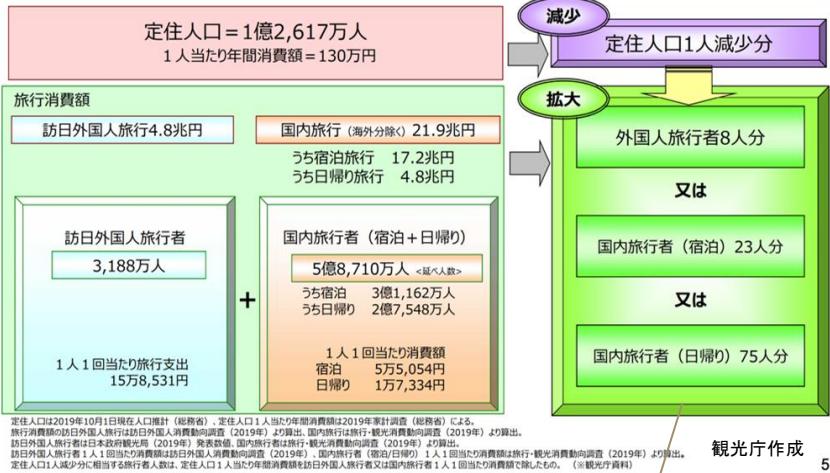


日本における観光の役割

◎観光は日本の地域経済の生命線（2）

* インバウンド消費の影響力

観光交流人口増大の経済効果（2019年）



国内定住人口1人あたりの年間消費額は約130万円。
これを旅行者の消費に換算すると、

- ・インバウンド旅行者：8人分
- ・国内旅行者（宿泊）：23人分
- ・国内旅行者（日帰り）：75人分

となります。

外国人旅行者の消費額は、国内旅行者（宿泊）と比較すると、約3倍近く多いことがわかります。

* 持続可能な観光の推進

こうした観光分野を地域住民の理解も得ながら成長させていくため、観光庁は「持続可能な観光」政策を推進しています。

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる（「稼げる産業・稼げる地域」）
- 地域住民の理解も得ながら、地域の自然、文化の保全と観光を両立させる（「住んでよし、訪れてよし」）



インバウンド回復戦略

- 消費額5兆円の早期達成に向けて、
施策を総動員する
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化
を目指す
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大に
つながる新たな交流需要の開拓を図る

資料：観光立国推進基本計画（第4次）概要～持続可能な形での観光立国への復活に向けて～

持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数

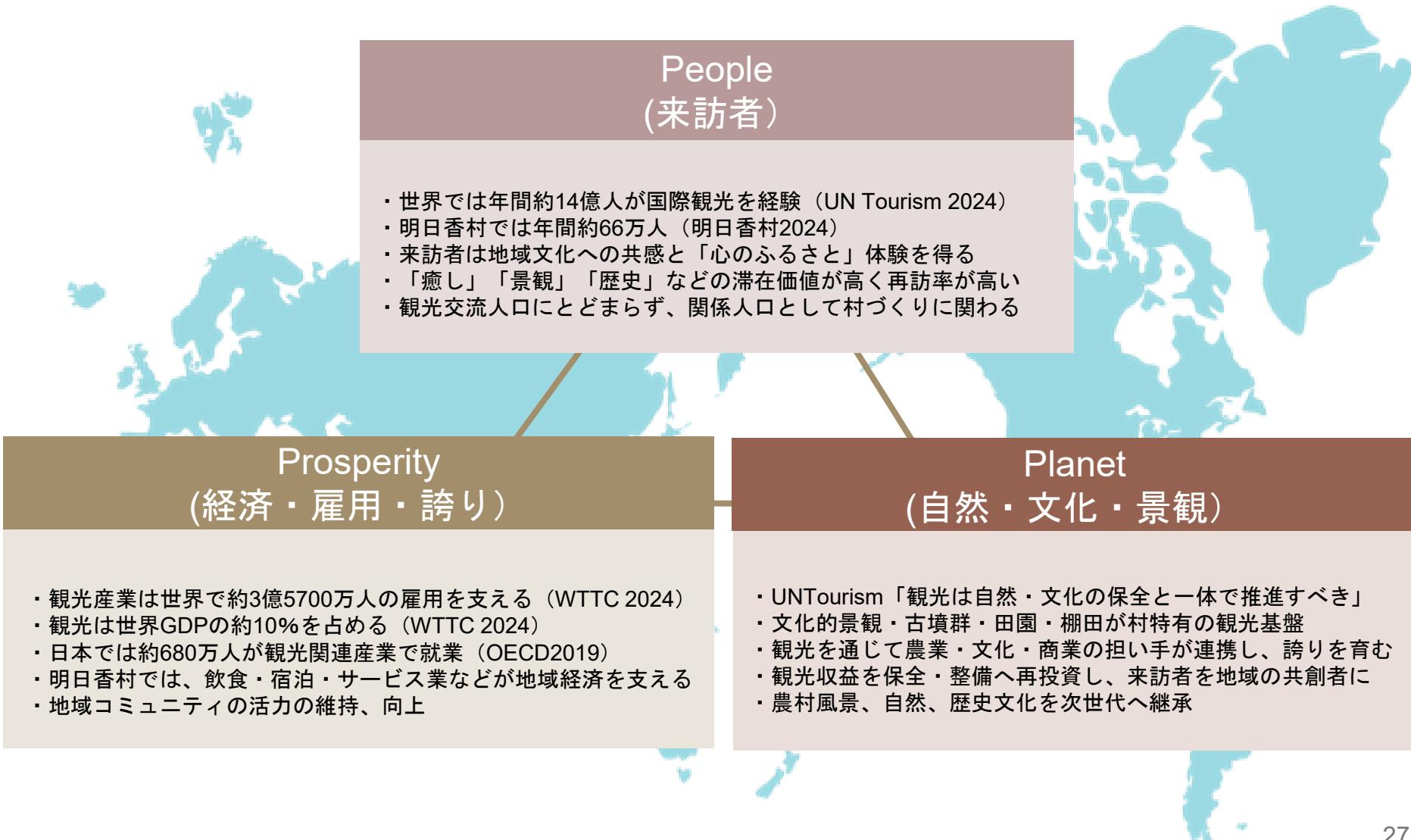
また、観光庁は持続可能な観光地域づくりに関する国際認証も推進しています。

目標値	実績値
2025年まで	2024年
100地域 (うち、国際認証・ 表彰地域6地域)	68地域 (うち、国際認証・ 表彰地域21地域)

観光庁が作成したものをもとに観光協会作成

明日香村における観光の役割

◎観光が生み出す“しあわせの循環”は、明日香村でも生み出せるはず



コラム《ベストツーリズムビレッジ》


Hug Trophy !!!

2025年10月17日、明日香村はUN Tourism（国連世界観光機関）が選ぶ「Best Tourism Villages（ベストツーリズムビレッジ）」に認定されました。

この国際認証は、明日香村の持続可能な観光地づくりに関わる、住民・事業者・行政の多くの取組と、それらが関連しながら生まれている明日香村に送られました。

みんなでトロフィーをハグ＆記念撮影してお祝いすると同時に、仕事への誇り、お互いの信頼、未来への希望を大切にするために、Hug Trophy !!!というプロジェクトを行いました。

Pride of Yourself 自分に自信を



Trust with Each Other お互いの信頼



Hope for Future 未来への希望



コラム 《ベストツーリズムビレッジ》

Hug Trophy !!! 写真入ります

第4章 課題解決と価値創造のための アクションプラン

第4章 目次

世界基準の観光ガイドラインの導入

P32

アクションプラン作成の進め方

P33

A | 持続可能なマネジメント

P34～36

B | 社会経済の持続可能性

P37～39

C | 文化の持続可能性

P40～41

D | 環境の持続可能性

P42～43



Hayato Murakami_ASUKA Photo Contest

世界基準の観光ガイドラインの導入

本計画が掲げるビジョンを実現するため、また、明日香村らしい持続可能な地域づくりを推進するために、当協議会は2020年に観光庁が国際基準に準拠し策定した

「持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン」
(Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations : 通称JSTS-D)
を導入します。

第4章では、住民や事業者の思いや課題分析を経て、次の5年間で優先的に行う取組をアクションプランとしてまとめます。

アクションプランはそれぞれJSTS-Dの各指標に紐づけられ、実施状況は国際的な基準に基づきモニタリングしていくこととします。



日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）とは

国際基準に準拠した指標

JSTS-Dは、2020年6月に観光庁よりリリースされました。日本の特性を各項目に反映した上で、GSTC(注1)による持続可能な観光の国際基準「GSTC-D2.0」に準拠した指標として策定されています。

GSTC(注1)：持続可能な観光に関する国際的な基準の設定・管理と認証機関の提供を行う非営利団体

持続可能な観光地マネジメントを進める上で のガイドライン

各地方公共団体や観光地域づくり法人(DMO)は、指標に基づいた取組みを進めることで、持続可能な観光地マネジメントを進めることができます。

4分野から構成される指標

日本版持続可能な観光ガイドラインは、
Aマネジメント、B社会経済、C文化、D環境の4分野から構成されており、47の大項目・113の小項目が設定されています。

JSTS-Dの役割と活用方法

JSTS-Dは、主に以下の3つの役割を果たすことが期待されています。

自己分析ツール

観光政策の決定、観光計画の策定に資するガイドラインとして活用

コミュニケーションツール

地域が一体となって観光地域づくりに取り組むための共有言語として活用

プロモーションツール

観光地域としてのブランド化、国際競争力の向上に活用

JSTS-Dを採用し「持続可能な観光地域づくり」に取組む意義

世界基準に則した持続可能な来訪地を目指せる

国際的に認証された指標を採用することは、地域の取組を世界基準に則したものにするということです。世界遺産（暫定リスト）構成資産を擁する地域として、グローバルな視野での観光地経営を行うことが責務となります。

地域内外の関係者が同じ認識を持つ

観光分野には明日香村内外に多くの関係者が存在します。評価分析や課題、改善や新たな創造のためのアクションプランについて、JSTS-Dを活用することで、関係者が同じ認識をもって議論できる基準ができます。

世界中のお客様から選ばれる来訪地に

Booking.comの2025年の調査によると、世界の93%の旅行者が「よりサステナブルな選択をしたい」と回答、ルートアナリティクス社は持続可能な観光の市場は、2025年～2035年で3.81兆USDから19兆USDへと約5倍に拡大すると予測しています。

アクションプラン作成の進め方

取組の収集

- * 第5次明日香村総合計画（後期基本計画）から関連する取組を収集
- * 明日香村観光推進協議会に所属する各組織から関連する取組を収集
- * 飛鳥ミライズ勉強会（第2回～第6回）におけるアイデアをもとに域内事業者の取組を設定
- * 1章「ビジョン」、2章「みんなの思い」、3章「課題分析と観光の役割」の文脈に照らし、5年間で行う優先的な取組を選抜・統合

取組の体系化

- * 取組群をJSTS-Dの4分野に大まかに分類し、政策体系【基本政策>アクションプラン（AP）】を構築
ここまで分類作業にAIを活用
- * 政策体系をJSTS-D指標群に照らし、視野に入っていないが優先度が高いAPを追加等、政策体系を精査
- * 4分野ごとにメイン指標（数値指標）を設定

取組の具体化

- * APごとに具体的な取組を整理し分類
- * 具体的な取組を担う主体（所管、連携、協力）、財源、時期を記載
- * 住民が今日からできるアクションを記載
- * 具体的な取組に関する数値指標を選抜し、APのサブ指標（数値指標）に設定
- * 具体的な取組を、JSTS-D指標群に紐付ける

【主体名の省略表記】

村役場：明日香村役場、商工会：明日香村商工会、YANT：大和飛鳥ニューツーリズム、振興公社：明日香村地域振興公社、農村RMO：明日香むらおこし協議会
観光協会：飛鳥観光協会、地域ガイド：飛鳥観光通訳ガイド協会・飛鳥地域プロガイド・飛鳥観光協会ボランティアガイド

A | 持続可能なマネジメント

基本政策 A1 来訪地マネジメント体制の確立

A1-AP①：地域一体となったマネジメント体制の確立

●具体的な取組

- ・来訪地醸成プランの策定推進・進捗管理 新 重
- ・明日香村観光推進協議会の定例開催 新
- ・飛鳥ミライズ等、事業者や住民の意見交換の場づくり
- ・GSTC-D認証取得 新 重 飛鳥観光協会のDMO登録 新

◎主体：所管＝村役場・観光協会 連携＝関係機関・域内事業者

◎住民アクション：満足度アンケート等への協力

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：GSTC-DにおけるセクションA・11項目の実施率

○JSTS-D：A1、A2、A5、A6

Section A メイン指標

- ◎持続可能な来訪地づくりに関する住民満足度
- ◎観光客数



飛鳥ミライズ勉強会

A1-AP②：住民・来訪者満足度と観光客数の公表

●具体的な取組

- ・来訪者及び住民満足度の定期集計と公表 新
- ・観光客数の集計と公表 新
- ・オーバーツーリズムリスクの把握と状況に応じた対応検討 重

◎主体：所管＝村役場・観光協会

連携＝主要施設管理者・域内宿泊事業者

◎住民アクション：満足度アンケート等への協力

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：短(1年)

○サブ指標：情報提供事業者率

○JSTS-D：A7、A9、A11

A1-AP③：観光地経営戦略と適切なプロモーション

●具体的な取組

- ・観光地経営戦略（DMO登録・更新時）の策定・推進 新
- ・市場調査・データに基づく情報取得とターゲッティング 新
- ・プロモーション効果測定 新

◎主体：所管＝観光協会 連携＝村役場・YANT

協力＝域内事業者・交通事業者

◎住民アクション：住民アンケート等への協力

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：ターゲット属性と宿泊者属性の整合率

○JSTS-D：A10

A | 持続可能なマネジメント

基本政策 A2

安心して滞在できる受入環境基盤の充実化

A2-AP①：交通渋滞の未然防止と公共交通機関利用促進

●具体的な取組

- ・トップシーズンの主要駐車場予約制導入検討・実施 新
- ・周遊バス乗車券セットチケットの販売 新
- ・交通渋滞リスクの把握と状況に応じた対策検討 重

◎主体：所管＝村役場・主要駐車場管理者

連携＝交通事業者・明日香村地域公共交通協議会

◎住民アクション：かめバスやデマンドタクシーの利用

◎財源：村役場 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：かめバス利用者数、飛鳥まるごと共通券販売数

○JSTS-D : C6、D2、D13



A2-AP②：多言語案内・Wi-Fi・キャッシュレス・ユニバーサルデザイン・多文化対応

●具体的な取組

- ・主要施設での多言語案内板、VR等の整備、フリーWi-Fi、キャッシュレス決済の整備、ユニバーサルデザインの推進
- ・多様な宗教・生活習慣への対応 新

◎住民アクション：他文化交流や社会的包摂の積極的な理解と関わり

◎主体：所管＝村役場 連携＝主要施設管理者・域内事業者

◎財源：村役場、主要施設管理者 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：フリーWi-Fi整備率、ベジタリアン・ヴィーガン研修参加者数

○JSTS-D : B8

A2-AP③：防災・医療情報の整備、気候変動への対策

●具体的な取組

- ・外国人を含む来訪者の災害時や感染症流行時対応の周知
- ・外国人来訪者の医療アクセス情報の整備 新 重
- ・夏季における避暑型体験プログラムの販売支援

◎住民アクション：災害時の来訪者への優しい声かけ

◎主体：所管＝村役場・観光協会 連携＝域内事業者

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：災害対応の認知率（域内事業者）、あすかのサマバケ参加者数

○JSTS-D : A11、A14、A15、A16、B4、B7

A | 持続可能なマネジメント

基本政策 A3

明日香村らしい来訪地風土の醸成

A3-AP①：「来訪ガイドライン」の策定

- 具体的な取組

- ・来訪者ガイドラインの策定（来訪者・住民・事業者向け） 新 重
- ・持続可能な観光地域づくりに関する情報の公開、旅行会社への周知 新

◎主体：所管＝村役場・観光協会

連携＝YANT・地域ガイド 協力＝送客旅行会社

◎住民アクション：来訪者へ優しい声かけ

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：ガイドライン認知率

○JSTS-D：B3、B4、C7、D3

A3-AP②：事業者向け研修・学生むけ教育

（持続可能な観光地域づくりと来訪ガイドライン）

- 具体的な取組

- ・地域ガイド研修や域内事業者向け研修
- ・小学校・中学校の郷土学習での周知

新

◎住民アクション：来訪ガイドラインを知る

◎主体：所管＝村役場・観光協会・地域プロガイド
連携＝教育委員会

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：研修での周知回数

○JSTS-D：A5、A8、C7、D3



B | 社会経済の持続可能性

基本政策 B1

歴史的風土に根ざした高付加価値な観光産業の確立

B1-AP①：域内調達促進による地場産品価値の向上

●具体的な取組

- ・事業者ごとの域内調達率の測定 新
- ・地場産品活用率の高い事業者の認定制度の創設 新 重

◎主体：所管＝村役場・農村RMO・商工会・振興公社・観光協会
連携＝域内事業者 協力：研究機関等

◎住民アクション：農産物の生産・直売所等を通じた販売
直売所での購入

◎財源：今後検討 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：域内事業者アンケート回収率、認定事業者数、食への満足度
○JSTS-D：B3、B4

B1-AP②：明日香の魅力を伝え深める地域ブランド向上

●具体的な取組

- ・事業者向け商品等デザイン指針の策定と商品開発 新
- ・事業者向け知的財産、ハラスメントのガイドラインの策定 新
- ・適切な民泊運営と地域配慮型運営の促進 新

◎主体：所管＝村役場・観光協会・商工会・YANT・域内事業者

◎住民アクション：地域産の手土産購入

◎財源：村役場、域内事業者 ◎時期：短(1~3年)

○サブ指標：域内事業者における認知度
○JSTS-D：A10、A13、B5、C5

Section B メイン指標

- ◎一人当たり観光消費額（村内宿泊者） ◎観光消費額 ◎経済波及効果
- 宿泊者数 ○月別来訪者数の平準化率 ○来訪者満足度
- 域内事業者従業者満足度 ○人口社会増減



B1-AP③：観光経済効果の測定、雇用の促進・人材育成

●具体的な取組

- ・経済波及効果、観光事業者の平均給与額及び満足度測定 新 重
- ・地価・家賃動向の把握 新
- ・観光ビジネスへの就労促進、人材育成

◎主体：所管＝村役場・観光協会・商工会 連携＝域内事業者

◎住民アクション：地域の産業を知る

◎財源：観光協会、商工会 ◎時期：短(1年)

○サブ指標：域内事業者アンケート回収率、人材育成研修の実施回数
○JSTS-D：B1、B2

B | 社会経済の持続可能性

基本政策 B2

宿泊を伴う長時間滞在の促進と 繁閑差の平準化

B2-AP①：歴史的風土に根差した宿泊・体験の販売促進

●具体的な取組

- ・ターゲットを絞った滞在（食+体験+宿）商品の販売促進
- ・民家ステイの販売促進

◎主体：所管＝観光協会、YANT

連携＝域内事業者 協力＝送客旅行会社

◎住民アクション：体験プログラム提供、民家ステイ参画

◎財源：観光庁・農水省補助金の活用 ◎時期：短(1年)

○サブ指標：宿泊客数、体験プログラムの満足率

○JSTS-D：A10、B2



インバウンド旅行会社等の視察ツアー

B2-AP②：地域ガイドを伴う滞在の定番化

●具体的な取組

- ・地域プロガイドを伴う滞在の付加価値向上
- ・地域ボランティアガイドを通じた関係人口創出

◎主体：所管＝観光協会・YANT

連携＝地域ガイド 協力＝送客旅行会社

◎住民アクション：地域ガイドのツアーに参加する

◎財源：観光協会、地域ガイド ◎時期：中(1～3年)

○サブ指標：地域ガイド案内数

○JSTS-D：B2、C7、C8、D3

B2-AP③：繁忙期と閑散期の格差の平準化

●具体的な取組

- ・夏の体験イベント、冬のいちごキャンペーン等の実施
- ・デジタルマーケティング研修の実施

◎主体：所管＝商工会 連携＝観光協会 協力＝民間IT事業者

◎住民アクション：閑散期イベントに参加する

◎財源：中小企業支援補助等 ◎時期：中(1～3年)

○サブ指標：あすかのサマバケ参加者数、デジタル化支援実施件数

○JSTS-D：B3、B8

B | 社会経済の持続可能性

基本政策 B3

起業・移住促進と資金調達方法の多様化・強靭化

B3-AP①：村で働き暮らしたい人との繋がり創出

●具体的な取組

- ・チャレンジショップ事業や就農支援の促進 重
- ・飛鳥ミライズ等域内事業者によるつながり創造
- ・村内小中学生に対する観光や農業に関する講義、体験 新

◎主体：所管＝村役場・農村RMO・振興公社
 連携＝観光協会・商工会・域内事業者・教育委員会
 ◎住民アクション：関心がありそうな知り合いへの声掛け
 ◎財源：村役場 ◎時期：中・長(3~5年)
 ○サブ指標：起業事業者数、従業者の域内在住率、経営耕地面積
 ○JSTS-D：B2、B4



B3-AP②：建物の継承円滑化と活用促進

●具体的な取組

- ・空き家バンク運用、各種補助金メニューでの支援促進 重
- ・企業リソースによる古民家再生の推進

◎主体：所管＝村役場・観光協会 連携＝不動産所有者・不動産事業者
 協力＝商工会・まちづくり明日香・域内事業者
 ◎住民アクション：不動産の将来的な取扱の早期検討、空き家バンクへの登録
 ◎財源：村役場・観光協会 ◎時期：中(1~3年)
 ○サブ指標：空き家バンク成約数、人口社会増減
 ○JSTS-D：B4、B6

B3-AP③：歴史的風土保全のための資金調達方法の多様化と強靭化

●具体的な取組

- ・ふるさと納税の促進・自治体クラウドファンディング検討
- ・文化資源を活用した収益事業の推進
- ・オーバーツーリズムに備えた観光税に関する議論の検討 新

◎主体：所管＝村役場 連携＝明日香村観光推進協議会・域内事業者
 ◎住民アクション：ふるさと納税返礼品の提供
 ◎財源：村役場 ◎時期：中・長(3~5年)
 ○サブ指標：ふるさと納税額、飛鳥乃余韻協力金額
 ○JSTS-D：A4

基本政策 C1

歴史文化遺産の価値の可視化と 保全の持続可能化

C1-AP①：世界遺産の解説拠点整備とデジタル技術の活用

- 具体的な取組

- ・高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設の整備 重
- ・中尾山古墳の復元整備 重
- ・デジタル技術等を活用した視覚化、体験化、多言語化

◎主体：所管＝村役場 連携＝国営飛鳥歴史公園・飛鳥資料館・万葉文化館・
寺社仏閣・観光協会 協力＝大学等

◎住民アクション：歴史文化資源を守ってきた住民としての誇りを持つ

◎財源：各施設管理者 ◎時期：中長（3～5年）

○サブ指標：歴史文化資産解説の満足度

○JSTS-D : C8

C1-AP②：世界遺産の価値と保全に関する地域プロガイド向け研修

- 具体的な取組

地域ガイド研修の実施

新

◎主体：所管＝村役場・観光協会・地域ガイド

連携＝構成資産管理者・域内事業者 協力：送客旅行会社

◎住民アクション：身近な構成資産を知る

◎財源：村役場、観光協会 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：研修実施回数

○JSTS-D : C7、C8

基本政策 C2

無形文化・伝承芸能の継承と創造

C2-AP①：伝承芸能・行事の体験資源化等による継承支援

- 具体的な取組

- ・定期的な公演機会の提供
- ・外国人旅行者との交流体験を通した創造的展開

◎主体：所管＝万葉文化館・国営飛鳥歴史公園・観光協会・YANT
連携＝伝承芸能・伝統行事保存団体

◎住民アクション：保存活動への参加

◎財源：公演・ツアー主催団体 ◎時期：中(1～3年)

○サブ指標：公演回数・ツアーへの提供回数

○JSTS-D : B4、C3



南無天踊り体験

C | 文化の持続可能性

基本政策 C3 食文化の提供を通じた農景観の保全

C3-AP①：食と農を結ぶガストロノミーツーリズム促進

●具体的な取組

- ・食文化、農文化、歴史的風土を結ぶ料理や食品、体験の提供



- ・農作物の収穫体験イベントの開催

◎主体：所管＝観光協会・YANT・農村RMO 連携＝域内事業者・農家

◎住民アクション：食と農の文化を継承する活動への参加

◎財源：ツアーバンク団体 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：ガストロノミーツーリー参加者数

○JSTS-D：B4、C3

C3-AP②：オーガニックや自然栽培野菜・和ハーブを取り入れた食の提供

●具体的な取組

- ・飲食店・宿泊施設でのオーガニック等食材の採用
- ・和ハーブを活用した商品開発

◎主体：所管＝域内事業者・農家 連携＝観光協会

◎住民アクション：明日香ビオマルシェでの購入 夢の楽市でのビオスタイル野菜の購入

◎財源：域内事業者 ◎時期：中期（1～3年）

○サブ指標：オーガニック野菜等食材採用事業者数

○JSTS-D：B3、B4、C1、C3、D4

基本政策 C4 関係人口共創による農・森林景観保全

C4-AP①：農地・森林景観の保全

●具体的な取組

- ・都市住民や企業との連携、協働による保全活動



◎主体：所管＝農村RMO、振興公社、森林組合

連携＝域外企業・棚田・果実オーナー 協力＝観光協会・域内事業者

◎住民アクション：所有地の定期的な草刈、保全活動への参加

◎財源：村役場 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：オーナー制度のベ参加人数、企業連携活動回数

○JSTS-D：B4、C3



おむすびづくり体験（十色）

D | 環境の持続可能性

基本政策 D1 生物多様性と野生生物管理

Section D メイン指標

◎自然資産の満足ポイント

D1-AP①：生物多様性の保全

●具体的な取組

- ・外来種調査による生態系の把握
- ・国営飛鳥歴史公園内の自然環境の保全

◎主体：所管＝村役場・国営飛鳥歴史公園 連携：観光協会・域内事業者

◎住民アクション：保全活動や体験プログラムへの参加

◎財源：村役場、国営飛鳥歴史公園 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：外来種調査の実施回数

○JSTS-D：D4



ササユリ保護活動（国営飛鳥歴史公園「飛鳥里山クラブ」）

D1-AP②：野生生物管理

●具体的な取組

- ・村指定天然記念物「飛鳥ホタル」の保護
- ・国営飛鳥歴史公園内のササユリ等希少植物の保護育成

◎主体：所管＝国営飛鳥歴史公園、村役場
連携＝飛鳥里山クラブ・観光協会・域内事業者

◎住民アクション：保全活動や体験プログラムへの参加
飛鳥川流域等でのカワニナの生息域保護

◎財源：村役場、国営飛鳥歴史公園 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：自然体験プログラムの開催回数

○JSTS-D：D5、D6

D1-AP③：地域ガイド向け研修の実施

●具体的な取組

- ・自然の持続可能性に関する研修の実施
- ・農村風景の文化的価値に関する研修の実施

◎主体：所管＝村役場・観光協会・地域ガイド
連携＝国営飛鳥歴史公園

◎住民アクション：身近な自然について知る

◎財源：村役場・観光協会 ◎時期：中（1～3年）

○サブ指標：研修実施回数

○JSTS-D：D3、D6

D | 環境の持続可能性

基本政策 D2 温室効果ガス排出削減と気候変動への 対応

D2-AP① : CO2排出量削減の促進

- 具体的な取組

- ・域内排出量のモニタリング 新 重
- ・カーボンオフセット等排出量削減のための優先的取特定 新

◎主体：所管=村役場 連携=奈良県・橿原市・桜井市

◎住民アクション：ペットボトルのリサイクル、マイボトルの活用

◎財源：今後検討 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：CO2域内排出量

○JSTS-D : D12



D2-AP② : 環境負荷の小さい交通の導入促進

- 具体的な取組

- ・自家用車での来訪抑制に向けた取り組み 重
- ・鉄道、かめバス、レンタサイクル、ハイキング促進
- ・電動小型モビリティの導入促進

◎主体：所管=村役場 連携=域内交通事業者・観光協会

◎住民アクション：かめバスやデマンドタクシーの利用

◎財源：村役場、各事業者 ◎時期：短（1年）

○サブ指標：かめバス利用者数、レンタサイクル利用者数

○JSTS-D : D13

D2-AP③ : ペットボトル削減とマイボトル使用の促進

- 具体的な取組

- ・ウォーターステーションの設置 新
- ・オリジナルボトルの販売 新

◎主体：所管=村役場・観光協会 連携=主要施設・域内事業者

◎住民アクション：マイボトル使用

◎財源：観光協会、設置施設 ◎時期：中(1~3年)

○サブ指標：ウォーターステーション設置数

○JSTS-D : A14、D12

第5章 成果指標の設定と ロードマップ

成果指標の設定について

①基本的な考え方：JSTS-Dのグローバルな視点

第4章で掲載した基本施策・アクションプラン（AP）・具体的な取組を推進していくため、成果指標を設定します。成果指標の設定にあたっては、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の基準及びその基となっているGSTC-Dのグローバルな視点を活用します。

またGSTC-D認証の2028年での取得を取組全体の目標とします。

②設定のしかた：メイン指標とサブ指標

JSTS-Dの4分野ごとに、政策指標（メイン指標）を、アクションプラン（AP）ごとに、施策指標（サブ指標）を設定します。メイン指標は目標値も設定します。なお、令和7年4月に改訂された「観光地域づくり法人（DMO）」の新KGI・KPI体系を満たす指標群を目指します。

③進捗の管理：観光推進協議会が動向をチェック

明日香村観光推進協議会が、関係機関・事業者・住民・来訪者の協力のもと、各指標の数値を継続的に把握し、動向を管理します。

④活用のしかた：取組推進に活用、次期計画の素材

アクションプランの推進に際してアクセルを踏むか・ブレーキを踏むか、あるいは方向性を変えるかの判断材料とします。また2031年以降の計画策定の基盤となる材料とします。

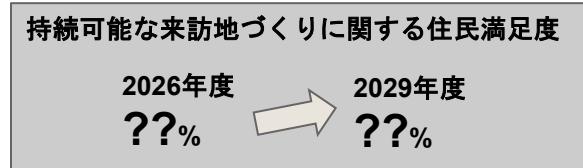


A | 持続可能なマネジメント

持続可能なマネジメントの推進によって目指す明日香村の姿

住民と事業者が、来訪者が村に滞在することを、今の自分たちの暮らしや未来の明日香村に「非常に良い影響を与える可能性があるもの」として認識しています。その上で地域全体が、力を合わせて主体的に、来訪者数や来訪者の行動を適切な姿に導いています。

◎ メイン指標



«考え方»
 •1994～2019年 26年間約80万人で推移=基準値
 •2020～2025年 コロナ禍での激減と回復=イレギュラー値
 •2026～2027年 世界遺産登録影響による一時的急増 80万人×2=160万人
 •2028年度以降 急減抑止し適正値を維持 80万人×1.5=120万人
 •明日香村総合計画後期計画（2024年度策定）においては2029年度100万人を目標値としているが、世界遺産登録の確度を考慮し再設定した

*26年度調査での基準値に対して目標値を設定します

◎ サブ指標

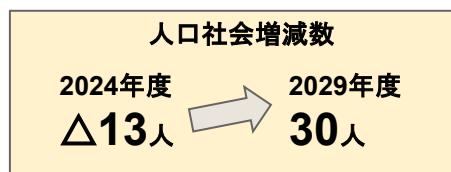
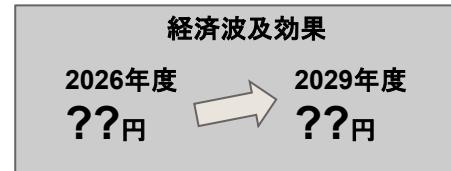
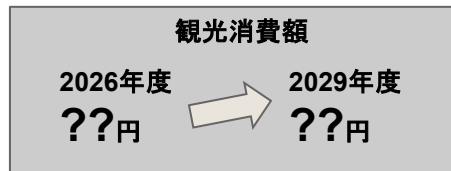
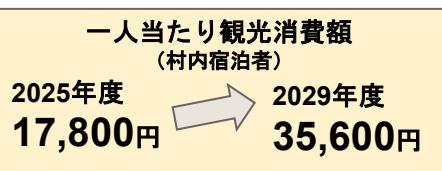
分類	施策	JSTS-D	サブ指標	情報収集担当
基本政策A1	来訪地マネジメント体制の確立			
AP1	地域一体となったマネジメント体制の確立	A1、A2、A5、A6	・GSTC-DセクションA実施率	観光協会
AP2	住民・来訪者満足度と観光客者数の公表	A7、A9、A11	・域内事業者アンケート回収率	観光協会
AP3	観光地経営戦略と適切なプロモーション	A10	・ターゲット属性と宿泊者属性の整合率	観光協会
基本政策A2	安心して滞在できる受入環境基盤の充実			
AP1	交通渋滞の未然防止と公共交通機関利用促進	C6、D2、D13	・かめバス利用者数 ・飛鳥まるごと共通券販売数	村役場
AP2	多言語案内・Wi-Fi・キャッシュレス・ユニバーサルデザイン・多文化対応	B8	・主要施設フリーWi-Fi整備率 ・ベジタリアン・ヴィーガン研修参加者数	村役場 観光協会
AP3	防災・医療情報の整備、気候変動への対策	A11、A14、A15、A16、B4、B7	・災害対応の認知率（域内事業者） ・あすかのサマバケ参加者数	事業者アンケ 観光協会
基本政策A3	明日香村らしい来訪地風土の醸成			
AP1	「来訪ガイドライン」の策定	B3、B4、C7、D3	・来訪ガイドライン認知率	住民・事業者アンケ
AP2	事業者向け研修・学生むけ教育	A5、A8、C7、D3	・研修での周知回数	村役場・観光協会

B | 社会経済の持続可能性

社会経済の持続可能性の推進によって目指す明日香村の姿

来訪者を顧客とするビジネスが、村の基幹産業として適度な消費と雇用を生み出し、移住者や関係人口を創出することで、地域に健全な影響を及ぼしながら経済循環を生み出しています。

◎ メイン指標



 *2026年度調査での基準値に対して設定します

B | 社会経済の持続可能性

◎ サブ指標

分類	施策	JSTS-D	サブ指標	情報収集担当
基本政策B1	歴史的風土に根ざした高付加価値な観光産業の確立			
AP1	域内調達促進による地場産品価値の向上	B3、B4	・域内事業者アンケート回収率 ・認定事業者数 ・食への満足度（観光実態調査）	事業者アンケ 村役場 実態調査
AP2	明日香の魅力を伝え深める地域ブランド向上	A10、A13、 B5、C5	・域内事業者における認知度	事業者アンケ
AP3	観光経済効果の測定、雇用の促進・人材育成	B1、B2	・域内事業者アンケート回収率 ・人材育成研修の実施回数	事業者アンケ 商工会
基本政策B2	宿泊を伴う長時間滞在の促進と繁閑差の平準化			
AP1	歴史的風土に根差した宿泊・体験の販売促進	A10、B2	・宿泊客数 ・体験プログラムの満足率（観光実態調査）	役場 実態調査
AP2	地域ガイドを伴う滞在の定番化	B2、C7、C8、 D3	・地域ガイド案内数	観光協会
AP3	繁忙期と閑散期の格差の平準化	B3、B8	・あすかのサマバケ参加者数 ・デジタル化支援実施件数	観光協会 商工会
基本政策B3	起業・移住促進と資金調達方法の多様化・強靭化			
AP1	村で働き暮らしたい人との繋がりづくり	B2、B4	・起業事業者数 ・従業者の域内在住率 ・耕作放棄地面積	村役場 事業者アンケ 村役場
AP2	建物の継承円滑化と活用促進	B4、B6	・空き家バンク成約数 ・人口社会増減	村役場 村役場
AP3	歴史的風土保全のための資金調達方法の多様化と強靭化	A4	・ふるさと納税額 ・飛鳥乃余韻協力金額	村役場 村役場

C | 文化の持続可能性

文化の持続可能性の推進によって目指す明日香村の姿

来訪者が滞在して様々な体験をすることが、歴史遺産や景観資産だけでなく、食文化や芸術・芸能を含めた明日香村の文化の保護と創造の活動に、大きな力を与えている。

◎ メイン指標

歴史文化遺産の満足ポイント	
2024年度 150P	→ 2029年度 190P

*明日香村観光実態調査における「来訪して満足したこと」の質問に対して歴史文化遺産に関する選択肢を選んだ人の割合（%）の合計
*対象選択肢
歴史文化の魅力、日本の原風景を感じる町並み、質の高い観光・文化施設・地域ならではの美味しい食



◎ サブ指標

分類	施策	JSTS-D	サブ指標	情報収集担当
基本政策C1	歴史文化遺産の価値の可視化と保全の持続可能化			
AP1	世界遺産の解説拠点整備とデジタル技術の活用	C8	・歴史文化資産解説の満足度（観光実態調査）	実態調査
AP2	世界遺産の価値と保全に関する地域プロガイド向け研修	C7、C8	・研修実施回数	村役場・観光協会
基本政策C2	無形文化・伝承芸能の継承と創造			
AP1	伝承芸能・行事の体験資源化による継承支援	B4、C3	・公演回数 ・ツアーへの提供回数	万葉文化館・国営公園 観光協会
基本政策C3	食文化の提供を通じた農景観の保全			
AP1	食と農を結ぶガストロノミーツーリズム促進	B4、C3	・ガストロノミーツアー参加者数	観光協会、ニューツー
AP2	オーガニックや自然栽培野菜・ハーブを取り入れた食の提供	B3、B4、C1、C3、D4	・オーガニック野菜等食材採用事業者数	事業者アンケ
基本政策C4	関係人口共創による農・森林景観保全			
AP1	農地・森林景観の保全	B4、C3	・オーナー制度のべ参加人数 ・企業連携活動回数	農村RMO 振興公社

D | 環境の持続可能性

環境の持続可能性の推進によって目指す明日香村の姿

来訪者が滞在して様々な体験をすることが、生物多様性の保護やCO2排出量の削減を含む明日香村の自然環境保全の活動に、大きな力を与えている。

◎ メイン指標



◎ サブ指標

分類	施策	JSTS-D	サブ指標	情報収集担当
基本政策D1	生物多様性と野生生物管理			
AP1	生物多様性の保全	D4	・自然体験プログラムの開催回数	国営公園
AP2	野生生物管理	D5、D6	・自然体験プログラムの開催回数	国営公園
AP3	地域ガイド向け研修の実施	D3、D6	・研修実施回数	村役場・観光協会
基本政策D2	温室効果ガス排出削減と気候変動への対応			
AP1	CO2排出量削減の促進	D12	・CO2域内排出量	観光協会
AP2	環境負荷の小さい交通の導入促進	D13	・かめバス利用者数 ・レンタサイクル利用者数	村役場 村役場
AP3	ペットボトル削減とマイボトル使用の促進	A14、D12	・ウォーターステーション設置数	観光協会

ロードマップについて



*各アクションプランは、単年度で終わるものではなく、すべて継続して実施していきます。

*各アクションプランに含まれる具体的な取組によっては、スケジュールは前後します。

*年度ごとにPDCAサイクルに基づいた検証を行い、随時内容の見直しと変更を行っていきます。

*次期計画は、2030年度に策定します。5年間の振り返りを行い、見直しを行います。

第6章 アクションを押し進める体制

明日香村観光推進協議会を常設運用

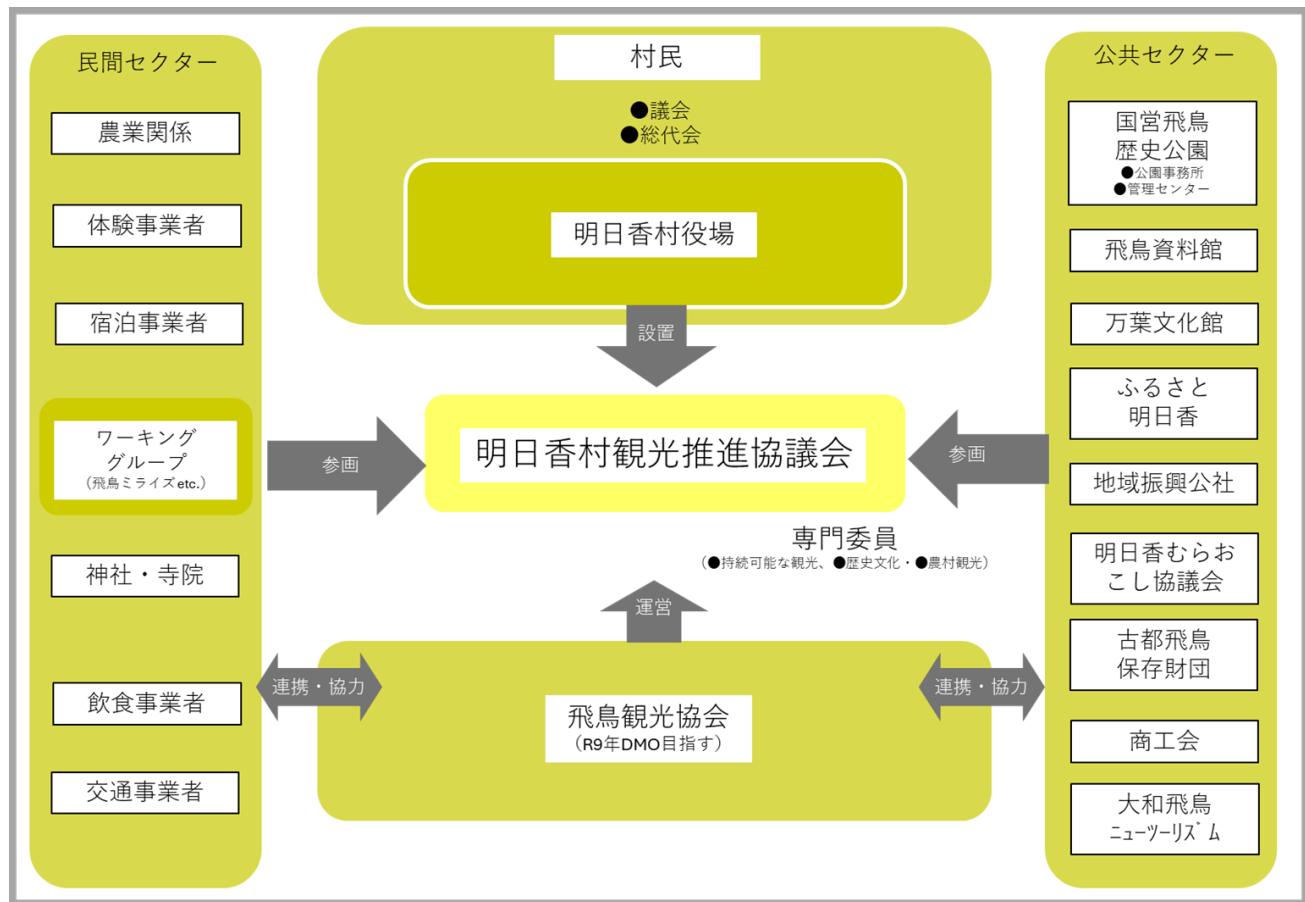


① 長期計画の策定、取組の推進、進捗の評価、次なる取組（PDCAサイクル）を統括・推進する機関。

② 長期計画に想定していない予期せぬ事態を把握し、課題や解決策を議論・情報共有をする場。

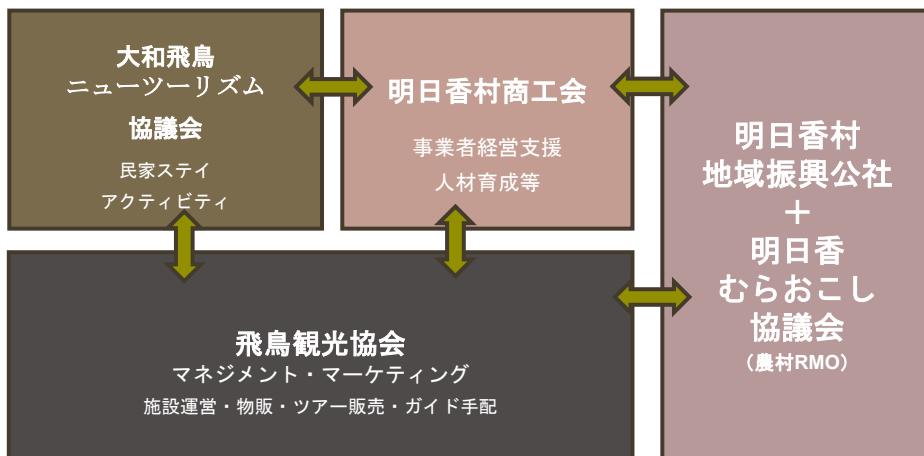
③ 事業者や住民が意見をかわし、新たな課題や取組を発掘し、目指す価値観を共有する場である「飛鳥ミライズ」と連携。

行政・関係機関、事業者、住民の代表者が参加する常設の協議会



◎中間団体の役割分担

明日香村の来訪地としての価値を守る



歴史や自然、暮らし文化や農村景観に根差したサービスを提供する
民間事業者との連携や支援を通じて交流・関係人口を増やす。

明日香村の来訪地としての価値を保全・継承する。

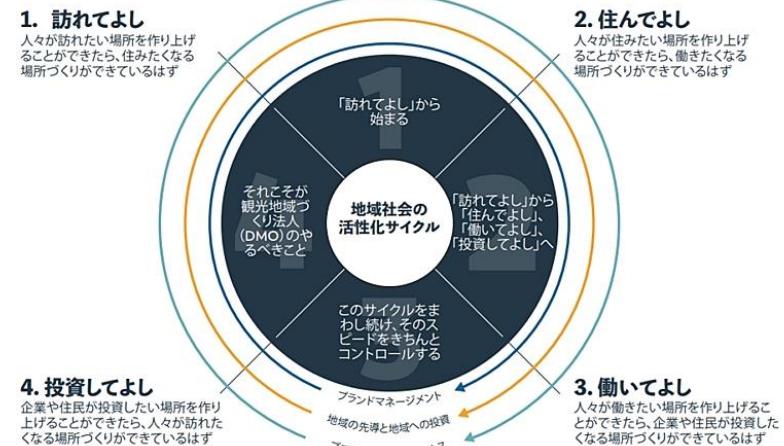
◎飛鳥観光協会がDMO登録を目指す

観光地経営を牽引するDMOの役割

1. データに基づく観光地経営戦略の策定
2. 観光資源の磨き上げ、二次交通など受け入れ環境の整備
3. プロモーション
4. 関係者間の合意形成、体制構築
5. 財源の確保

(観光庁による新ガイドラインより)

観光地域づくり法人(DMO)のやるべきこと



◎ベストツーリズムビレッジ 世界と国内ネットワーク

持続可能な観光地域づくりに取り組む地域が認定される「ベストツーリズムビレッジ」は、世界の人口1万5千人以下の村の集まりです。

2025年現在で認定地域は236地域、アップグレード地域も含め319地域がネットワークに参画しています。

定期的にオンラインでの研修や意見交換を行い、地域どおしの交流もはじまっています。また日本国内でも14地域が定期的に勉強会や交流、共同事業を行っています。

地域の文化や自然、暮らしを大切にしながら、観光を地域づくりの力に変えたいと取り組む村々は、お互いを理解し合い、助け合える、かけがえのない存在となっています。



出典：「Building Bridges: The Best Tourism Villages Network Achievements, Impact and the Road Ahead (2021 - 2025)」 UN Tourism



◎策定の記録

2025年7月～12月
飛鳥ミライズ ワークショップ
全6回

2025年11月20日
第1回 明日香村観光推進協議会
計画骨子承認

2025年12月15日
第2回 明日香村観光推進協議会
計画素案承認

2026年2月16日
第3回 明日香村観光推進協議会
計画案承認

2026年2月20日～3月8日
パブリックコメント

2026年4月●日
第4回 明日香村観光推進協議会
明日香村来訪地醸成計画 決議

◎明日香村観光推進協議会 委員

順不同・敬称略

委員	森川 裕一	明日香村 村長
	石田 雅則	明日香村村議会 議長
	前田 憲一	明日香村総代会 会長
	柳澤 秋介	国土交通省近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 所長
	中井 健二	一般財団法人公園財団飛鳥管理センター センター長
	本中 真	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所飛鳥資料館 館長
	辻 祥子	奈良県立万葉文化館 館長
	田中 充	公益財団法人古都飛鳥保存財団 常務理事
	原 実	一般財団法人明日香村地域振興公社 代表理事
	島田 昌則	明日香村商工会 会長
	吉田 明人	一般社団法人大和飛鳥ニューターリズム 理事
	尾上 弘記	農事組合法人ふるさと明日香 代表理事
	石田 裕彦	明日香村苺研究会 会長
	植島 寧照	飛鳥寺 住職
	飛鳥 朝子	飛鳥坐神社 祜宜
	中島 茂弥	有限会社メイコウ 代表取締役
	山田 和美	観光明日香公共事業株式会社 取締役
	田中 祐二	明日香のお宿キトラ
	米田 桃子	近畿日本鉄道株式会社 鉄道本部 大阪統括部 運輸部 営業課 課長
	大西 秀樹	奈良交通株式会社 取締役
	上山 好庸	一般社団法人飛鳥観光協会 代表理事
専門委員	二神 真美	名城大学 名誉教授
	吉兼 秀夫	阪南大学 名誉教授
	原田 弘之	大阪成蹊大学国際観光学部 准教授

人が育ち、文化が息づく、もう一度訪れたくなる明日香へ。